## Management Club Report Oct.2017/Vol.178

## Monthly Opinion 《パラダイムシフトを受け入れる》

今年は『受ける、受けとめる』をテーマとして活動して参りましたが、考えてみればそもそも歯科医院は来院希望者の悩みや希望をしっかり受けようとしているのだろうか、来院希望者が我が歯科医院には何を期待しているのかを考え、それを正しく受けとめようとしているだろうか、そしてそれを可能とする体制を整え、準備と実施と改善、いわゆるP・D・C・Aサイクルを正常に回しているのだろうか、といった疑問が湧いてきました。

「歯科医院なので歯を治すことを期待されていると受けとめ、期待に応えられるよう準備し実施し日々改善に努めている」

勿論、その回答で本来的には正しいのですが、歯科医院が隣近所に数多く建ち並び、周囲の人口は減少し、また子供のう蝕罹患率も減少傾向にある現状を考えれば、歯科医院の活躍する機会は確実に減ってくると見るのが正常な感覚でしょう。

しかし、歯科医院が活躍しなくても済む社会になればなるほど社会は幸福の 度合いを増すことになります。それは例えて言うならば、警察官、消防士、海上 保安官そして自衛官といった職種が活躍しなくて済む社会が平和で幸せである のと同じ理屈です。

ただ、唯一異なる点は、警察や消防や海上保安庁や自衛隊が公的機関であり事件や事故が発生しなくても存続していけるのに対し、歯科医院は「医療機関」という些か公的性格を付与されながらそのほとんどが民間であり、患者がやって来なければ存続し得ないという点です。

今月は、いわば「患者を診る」という歯科医院の本来的な存在意義が変化しパラダイムシフトが起きつつある現状の中で、それをどう受けとめどのように受け入れて行けばよいのかについて考えてみたいと思います。

1

## 社会に平穏と健康を創り出す価値ある仕事

## 事件や事故に即応する職種は不本意ながらも日々大活躍

活躍しないにこしたことはないのですが、事件や事故があった場合に備えて 絶対に必要な職種として、警察官、消防士、救急救命士、そして海上保安官や自 衛官を、その典型例として冒頭のリード部分で紹介しました。

彼らは現実には大活躍をしておりますので、今の社会は理想的な社会ではな